

いま、ここから、あるきだす。

特定非営利活動法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会
代表 伊藤正俊・中垣内正和
〒170-0002 東京都豊島区東鴨 3-16-12-301 Tel: 03-5944-5250 Fax: 03-5944-5290
http://www.khj-h.com

旅立ち

KHJ NEWS
HIKIKOMORI

- 1面 ▼ KHJ 全国大会 in 東京 (10月28・29日)
- 2面 ▼ シンポジウム「暴力的支援に陥らない支援を目指して」
- 3面 ▼ 若者と一緒に行きつづける家族会
- 4面 ▼ 全国 KHJ 支部案内・他

平成29年度 第一回

「ひきこもり問題の理解促進と支援力向上のための研修会」 長期高齢化を防ぐための家族会からの提案

〈7月27日・28日、述べ180名参加〉

KHJが主催する第一回「ひきこもり問題の理解促進と支援力向上のための研修会」が東京都で開催された。当会は、全国組織を有する唯一のひきこもり家族会として、15年間に渡り、協働する有識者とともに、体験的・専門的知識を蓄積してきた。

それは、当事者団体として、当事者視点からのひきこもり支援の在り方についての先駆的な試みでもあった。ひきこもりの心理は、往々にして誤解されやすいため、当事者(家族、本人)視点からの支援は極めて重要になると考へる。

ひきこもり長期高齢化の問題が深刻化する中、ひきこもる家庭への支援に「ひきこもり問題の理解促進と支援力向上のための研修会」が東京都で開催された。当会は、全国組織を有する唯一のひきこもり家族会として、15年間に渡り、協働する有識者とともに、体験的・専門的知識を蓄積してきた。

本人を含め家族全体をどのように支えていくのか、地域資源と連携した息の長い支援のあり方が問われている。本研修は、生活困窮者自立支援法施行に合わせて、有識者と共に支援の在り方を提案した「地域におけるひきこもり支援ガイドブック」を教材として実施された。

参加者は、社協、困窮者窓口、自治体担当者、議員、ひきこもり地域支援センター、NPO関係者、家族会、ピアサポーターら。2日間でのべ180名が参加した。以下、参加者アンケートより支援の現状と課題を挙げる。

●参加理由は「ひきこもり相談の増加」
参加理由として、ひきこもり相談の増加、多様化に伴い、支援力の向上にせまらるる現状も多々ある。

KHJ 全国大会 in 東京 (10月28日・29日) 開催!! 「つながろう～生き方の多様性を認められる明日(地域社会)をめざして～」(詳細は3面に記載)



ひきこもり支援に「対する現場の困難」とは
支援者が困難に感じることとして、「本人となかなか会えなかったり、今まで会えていても急に会えなくなった」、継続や対応が難しい、「家族に接することとはできて、本人の相談ニーズがない(親からの相談のみ)」、「本人が介入に拒否的」、「医療の受診を拒んでいる場合も、病院や保健所等につなぐためのアプローチに悩むことが多い」、「本人や親が困り感や危機感を感じてい

●利用可能な制度や資源の情報を探る声
「出口支援をする社会資源が少ない」、「居場所づくりや家族会づくりのノウハウが知りたい」、「親の心配が高じて不安感をおおる関わり方をしている現状に、家族会等親に対する支援の必要性も感じている」という声がかかった。

●全体の感想(アンケートからの抜粋)
訪問支援や就労支援、家族支援など、実践的、具体的な方法を学べたことへの満足度が高かった。

●今年度のひきこもり支援研修(実践編)の継続が決まりました!
11月29日(水) ひきこもり支援の実践①、2月19日(月) ひきこもり支援の実践② お申込み、詳細は当会ホームページをご覧ください。

(KHJ本部 事務局 上田理香)

平成29年度 厚生労働省 社会福祉推進事業 始まる

潜在化する社会的孤立状態への発見・介入・見守りに関する支援モデルの導出

今年度も厚生労働省の社会福祉推進事業をKHJが主催し、家族会連合会が受託し、高齢化に伴うひきこもりの実態や対応についての調査を継続することになりました。今年度のテーマは「潜在化する社会的孤立問題(長期化したひきこもり・ニート等)へのフォローアップ・インフォメーション」です。

今年度も厚生労働省の社会福祉推進事業をKHJが主催し、家族会連合会が受託し、高齢化に伴うひきこもりの実態や対応についての調査を継続することになりました。今年度のテーマは「潜在化する社会的孤立問題(長期化したひきこもり・ニート等)へのフォローアップ・インフォメーション」です。

今年度も厚生労働省の社会福祉推進事業をKHJが主催し、家族会連合会が受託し、高齢化に伴うひきこもりの実態や対応についての調査を継続することになりました。今年度のテーマは「潜在化する社会的孤立問題(長期化したひきこもり・ニート等)へのフォローアップ・インフォメーション」です。

今年度も厚生労働省の社会福祉推進事業をKHJが主催し、家族会連合会が受託し、高齢化に伴うひきこもりの実態や対応についての調査を継続することになりました。今年度のテーマは「潜在化する社会的孤立問題(長期化したひきこもり・ニート等)へのフォローアップ・インフォメーション」です。

今年度も厚生労働省の社会福祉推進事業をKHJが主催し、家族会連合会が受託し、高齢化に伴うひきこもりの実態や対応についての調査を継続することになりました。今年度のテーマは「潜在化する社会的孤立問題(長期化したひきこもり・ニート等)へのフォローアップ・インフォメーション」です。

NAGAOKA KOKORO CLINIC
ながおか心のクリニック
ストレス外来・ひきこもり外来・アルコール予防外来・摂食障害外来

★KHJ長岡フェニックスの会・家族会、居場所、パティオ、テラコヤ、パソなび、NABA
★断酒ミーティング、外来そく断酒会、外来そくAA

当クリニックは、社会参加を目標にします

〒940-0082 新潟県長岡市千歳1丁目3-42
ながおか心のクリニック 中垣内正和
TEL: 0258 38 5001
FAX: 0258 38 5002
http://nagakoko.com

なると少なくなり、より高齢になった段階で本人や家族を見守り続ける仕組みが求められています。他方、2015年に設置された生活困窮者の相談窓口の調査では全国151窓口から回答を得ました。86.1%の窓口でひきこもり事例に関する相談を受けており、対応したところのある年齢層として40代を上げる窓口が最多でした。「8050問題」というように、80代の両親が相談に訪れることも少なくありません。40代以上の相談は、高齢者支援の機関などから窓口につながった例も多くなっています。窓口で感じている困難として、ひきこもる本人とのコミュニケーションや、本人や家族の支援に対する動機付けを高めることが挙げられています(調査結果は報告書にまとめられ、KHJ家族会連合会のウェブサイトに掲載されています)。

社会的孤立の問題が広がり、本人や家族がひきこもりという言葉を知らないまま高齢化している事例も少なくありません。またいつたん始まった相談が有効な社会参加支援に結びつかず、途切れがちであることが調査から分かりました。このため有効な「発見・介入・見守り」を実施している家族会や困窮者窓口を訪問し、有効な支援モデルを探し出す調査を継続していきます。

今年度は一斉の事例検討会は実施せず、調査にご協力いただく家族会支部には直接連絡を申し上げます。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

(愛知教育大学 准教授 川北稔)